

丈夫な血管 長生きのもと

動脈が詰まって、足に血液が不足する病気があります。急に詰まると、下肢の色が白くなり、ひどい痛みで、そのうちに動かなくなり、救急車で病院にかかる方がほとんどです。ここでは何年もかかって動脈が詰まっていく病気について話します。

「人は動脈とともに老いる」と、有名なウィリアム・オスラー博士が看

閉塞性動脈硬化症 (上)

破しているように、年を重ねるに従って動脈硬化は進行し、喫煙、糖尿病、脂質異常症などで加速します。それに伴い、動脈の内腔が次第に狭くなっていきます。これを閉塞性動脈硬化症、あるいは

末梢動脈疾患と呼びます。血液を送ることに特化した血管に狭窄病変が顕著に起きます。すると、人間の身体に自然に備わっている代償機能により、もともとは筋肉の隅

太ももの痛み黄信号

にまで血液を送るためにできている血管網が、狭くなった血管の代わりに血液を送ることができるようになり、太く発達してきます。

しかし、いくら発達しても血液を送ることに特化した血管ほどには太くはなれません。人間は歩行などの運動をする時に

は、安静にしている時に比べて筋肉は何十倍も血液を必要とします。血液を送ることに特化した血管では対応できた量の血液が、血管網からは送れなくなり、この状態になると、あ

る一定の距離を歩くと足が痛くなるという症状が出ます。数分休むと、血管網の血流で痛みが取れて、また歩けるようになり、しばらく歩くと、また痛くなります。痛みの場所は、太ももやふくらはぎなどの筋肉の多い場所です。これが、閉塞性動脈硬化症の初発症状で、間欠性跛行と言います。

尚道先生
錦見 (にしきみ・なほみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米國留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。